



発行:明治大学校友会
千葉県西部支部市川地域支部
〒272-0835 市川市中国分4-13-12
発行人:行木 勝雄

第五回 記念総会開催される!

新緑の鮮やかな、平成21年5月17日(日)に、当支部第五回総会が、前回と同じ市川駅北口の市川グランドホテルに於いて、開催された。当支部の設立については、平成16年12月18日、ご賛同いただいた市川市居住の校友52名が参加して、市川地域支部設立総会を開催し、市川地域支部を立上げ同時に、役員、会員名簿、議事録、会則等の関係書類を大学へ提出し支部設立の承認申請を行ないました。翌年7月25日支部設立が承認され念願の第一回総会を同年9月4日に市川グランドホテルで開催して以来、本年は会員の皆様の温かいご理解とご支援により、72名が参加し、記念すべき第五回総会を迎えることが出来ました。



来賓として、校友会本部から清水副会長、猪瀬西部支部長、並びに、近隣の地域支部長がご出席され、代表して清水副会長、猪瀬支部長から祝辞をいただきました。

議事については、事業関係、予算関係、役員改選等すべて承認された後、新たに入会された10名の会員の自己紹介があり閉会となりました。

引続き、懇親会は、当会々員の最年長の中村忠一氏(27年政経卒)の乾杯でスタートしました。前回までは、参加者が学部別に集まり写真撮影等をしていましたが、今回は卒業年度別に集まったため同期の桜の話題に花を咲かせ親睦を図ることが出来たと思われまます。アトラクションでは、節目の第五回総会を記念して出演した明治大学ビックサウンズソサエティーオーケストラの迫力あるサウンドに会場は最高に盛り上がり、参加者も飲食を忘れ聞き惚れていました。

最後は、日下幹事長の指揮により、参加者全員で明治大学校歌を合唱し第五回総会は終了しました。

第45回 全国校友富山大会



平成21年9月27日(日) 立山連峰から富山湾にかけての雄大なパノラマ、立山黒部アルペンルートや黒部峡谷など日本を代表する観光地や世界遺産の五箇山合掌造りの集落、国宝瑞龍寺、越中おわら風の盆などの民謡、伝統芸能の宝庫でもある富山県の富山県民会館大ホールにおいて、全国校友1,200名が参加して大会が開催されました。

大会は、東京オリンピック110メートルハードルで準決勝に進出した校友である安田寛一氏(昭和34年文学部卒)の旗手による大会旗の入場でスタートし、松原大会実行委員長から、富山県支部創設110年目の節目の年に、この富山で大会が開催されることは大きな喜びであります。と歓迎の挨拶があり続いて来賓、各役員を紹介の後に、向殿校友会長が、青木前会長の後を継ぎ新校友会長として富山大会を迎えることができ記念すべき大会になりましたと、挨拶がありました。



大学から長堀理事長、納谷学長が祝辞を述べ来賓の石井富山県知事、森富山市長の祝辞に続き東京六大学OB会を代表して、富山県三田会金岡会長および、連合父母会の高橋会長の祝辞がありました。記念イベントでは、富山県出身の校友である落語家の立川志の輔氏(昭和51年経営学部卒)の落語で会場いっぱい笑いの渦が巻き起こりました。

越中おわら節のオープニングで始まった懇親会は、校友会山口副会長の乾杯の後に、昭和30年から、富山に平和と明るさを与えようと、毎年富山市で開催されている全国チンドンコンクールのプロのチンドンマンがその技とアイデアを披露してくれました。

最後は、明治大学応援団も加わり全員で校歌を大合唱して富山大会は閉会いたしました。

初めての試み「暑気払い」を開催

会員の交流と親睦を目的とした催しは、例年、総会および、懇親会のみでしたが、去年は初めての試みとして、「夏の夕べ、会員相集って楽しく愉快なひとときを共に過ごしましょう！」ということで、平成21年8月8日（土）に本八幡駅近くの「うえだ別館」において“市川地域支部会員の暑気払い”を開催しました。

総勢55名の参加のもと、食べて飲んで語って、そして参加者が持ち寄った品物の福引やカラオケ競演などで大いに盛り上がり、一昨年の「明大マンドリン倶楽部・市川チャリティコンサート」という大事業を成し遂げた喜びをあらたに噛み締め、会員の一致団結した底力を更に育む場ともなりました。



教育振興協力資金の募金についてのお礼

千葉県西部支部の募金目標額 5,400万円に対し、平成21年10月31日時点で、
【西部支部募金額】 54,858,699円（達成率 101.59%）に達しております。
これも支部会員皆様の多大なご協力のおかげと、大変感謝しております。厚く御礼申し上げます。
《全国募金目標額 10億円に対し、同期で 804,597,165円（達成率 80.46%）》

校友会千葉県西部支部 第7回総会

【日時・場所】平成22年5月9日（日）13:00より浦安ブライトンホテルにて開催された。

第46回 全国交友山形大会のご案内



【日時】平成22年9月5日（日）13:00より
【場所】山形市市民会館大ホール（山形市香澄町2-9-45）※JR山形駅東口から、徒歩約7分
【内容】・記念式典 ・開式 ・記念講演会 ・懇親会（パレスグランデールにて）
※詳細は、地域支部宛にお問合せ下さい。



まつかぜに独り言

“この頃思うこと”

鈴木 一夫（昭和35年 工学部卒）

明大を昭和35年に卒業して半世紀、我々が就職した頃には机の上にあるのは電話のみだった。今はコピー機、ファックス、電卓、パソコン、携帯電話等ありあまる電子機器がある中での仕事である。

電話交換手もタイピストも現在ではない。この50年での仕事の変化は目を見張るものがあり、現在の若い人は情報にうもれて、立ち止まって考える時間的余裕すらないのではと思われる。

古き良き時代は去り、情報に振り回される忙しい時代になった。我々の時代は右肩上がりの経済で、アメリカに追いつけ追い越せの時代で夢もあったが、今は不景気で日本航空も破綻し、経済では中国に追い越されつつあり、昔の様な良き時代が来るのか危惧される今日この頃である。

“同窓の縁”

山川 藤夫（昭和36年 工学部卒）

伊勢志摩の南端、南伊勢町に生まれ、伊勢神宮の外輪山に在る宇治山田高校を卒業、昭和32年から36年、明治大学で学ばせて頂いた。現在市川市に住み、年三回開催の山高歩く会、明大校友会市川地域支部のゴルフコンペに参加し同窓の縁で繋がる素晴らし集いに感謝の念で一杯である。

“ちょっと一言”

芹川 恵一（昭和37年 商学部卒）

ご縁がありまして、平成15年5月より市川南の住民となり、明大校友会市川地域支部に入会させて頂きました。人間は「健康、時間、マネー」の三拍子が揃うのが困難で、小生も同様です。昨年やっと長男が結婚・独立し、演歌の「孫」を歌える日を楽しみにしている今日この頃です。

“友人に誘われて入会”

湯浅 起市郎（昭和49年 工学部卒）

友人に誘われて明治大学校友会・市川地域支部に入会させて頂きました。校友会に参加して、先輩方が誠実に熱心に会を運営している姿に感心しました。また、明大マンドリンクラブの市川での演奏会のお手伝いを通じて、多数のOBの方と知り合いになれたことに感謝しています。今後とも積極的に校友会に参加していきたいと思っております。

“校友会に入会して”

金子 明（平成8年 商学部卒）

一昨年、先輩から入会の誘いをいただき、校友会に入会することができました。これまで、校友会の活動に何度か参加させて頂きましたが、そこでまず感じたことは、参加している方々がとても生き生きとして、何か力強いエネルギーを感じるものがありました。特に、大先輩の方から現役時代に活躍されたお話を伺うことは大変参考になっています。校友会に参加して、母校の魅力を改めて感じるとともに、今後、同学の先輩や後輩との新たな出会いの場として、さらなる友好の輪を拡げていきたいと思っています。



紫紺の軌跡

カメラクラブと合宿の思い出とゴルフ人生

鈴木 宣男 (昭和34年 政経学部卒)

私が明治大学へ入学した昭和三十年頃は、ご存知かと思いますが、まだ白黒テレビが出始めの頃で、カメラもジャバラカメラから35mmカメラへと進歩しつつあった頃です。明大へ入学と同時にカメラクラブに入部しました。私の長兄が器用なたちでラジオ、天体望遠鏡、そして白黒テレビまで自分で作ってしまいました。当時は巷にテレビは殆ど無く、力道山が活躍しているのを近所の人達が兄のテレビで見たくて、三十から四十人位の人が家の前の広場に集まって来ました。兄のテレビは十四吋で今から見ると小さくてアルミのボディに裸のブラウン管と真空管がむき出しのテレビでしたが、近所の人達は歓声を上げて喜んだものでした。その兄が又カメラにも凝りだして、次々に新しいのを物色して自分で暗室を作り現像も一人で何でもやってしまうのでした。私は中学生の頃からジャバラカメラをいじっていましたが兄の影響からその頃出た、ドイツ製のミノックスという精巧な小型カメラに対抗して出来た手のひらに入る小型カメラ、コーナン16というカメラを入手して思う存分撮りまくりました。今でもその頃のコーナン16で撮った多数の傑作写真集のアルバムがしまっておりあります。その後兄の勧めでキヤノンII Sという、当時最高峰のキヤノン4SBが八万五千円位であったのを六万円位で入手出来ました。当時の物価からいうとカメラは高価な物でした。今もあんまり価格は変わっていませんね。このキヤノンを持って明大のカメラクラブに入部したのです。カメラクラブの最初の思い出はメーデーの集会の取材をクラブ員全員で展覧会の為撮りまくりました。渋谷の広場に大勢のハチマキ姿の若者達が旗やプラカードを持って集まり演説台の人達等種々の人々の様子をカメラに納めました。私は新人の新人でしたが思うところがあって人とは違ったものを心がけていましたので構図や状況や、自分なりにストーリーをこしらえていました。国会議事堂に向って進軍する兵士の様に思い思いの行列の行く手を追いかけて撮りまくりました。私は電柱に登り出来る限り上からの写真を撮ったり国会議事堂前でのジグザグ行進等構図を重視しながら作品を作り上げました。そして部員全員二百枚位の作品の互選で選ばれた二十数枚の中に私の作品が四枚も入ったのです。新人の新人がヤッターという思いでした。展覧会出品の作品は、全紙、半切等かなり大きくそして襖張りという白黒とはいえかなり立派なものでした。新人ながら破格の事だったとその時の誇らしかった思いは今も忘れません。

カメラクラブの思い出は冬の合宿で赤倉のスキー場に行き、それが初めてのスキーでしたからガムシャラにゲレンデで雪にまみれて転がったのを思い出します。そして合宿の集い飲み会での歌とか何かやらされるのが大変で、当時はカラオケ等無く皆適当な歌や物まねでお茶をにごしていました。夏の合宿では、志摩半島で海女の人達の様子や地元の人達の様子をカメラに納めるのが楽しくて充実した日々でした。合宿の帰りに皆で京都へ廻り思い思いに見学に行きましたが、その時初めて皆と一緒に島原へと、くり出したのです。遅まきながら私はこれが初めてでありました。そんなカメラクラブでしたが三年の時役員人事の事で一悶着あり、私はカメラクラブを退部しました。

丁度その頃、父が会社の顧問の公認会計士の先生にゴルフを吹きこまれていました。当時は未だゴルフは巷でもゴルフという言葉さえ聞くことはなかった位一般の人は余りゴルフが分からない頃でした。私も父の影響で当時紐付きのボールを広場で父のクラブで打ってこれがビューンと張り切る感触に倣って行きました。明治の学友達も私がゴルフに行くと言うと、「お前何だい、ゴルフなんてやめちゃやめちゃえ」と言って相手にしてくれませんでした。面白いんだと言っても、当時は、まだ学友達も知らん振りでしたね。しかし三十四年に卒業してお互いに社会人となって後に学友の何人から「鈴木、ゴルフに行こうよ」と声が掛かり、それからは明治の学友とのゴルフが頻繁になったのでした。そして私の人生の大半を占めてしまい。今は妻も一緒にゴルフに出かけます。こうして私の人生は仕事以外ではゴルフが死ぬまでの友であると思っています。

私の学生生活と企業人としての体験



日下 豊顕 (昭和37年 商学部卒)

私の学生生活は、良く遊び、良く学び大変充実したものであったと自負しております。和泉時代は入学同時から会計学研究会に入部し幹事をやり駿河台御茶ノ水専門課程卒業迄役員幹事をやりながら百人以上の会員と充実したクラブ活動をしました。和泉祭、大学祭の参加は勿論のこと関東甲信越地区の商業高校生を対象とした簿記コンクールを毎年開催して好評を博していました。又、我が明治大学会計学研究会がイニシアティブをとり関東地区私立大学数大学で会計学研究発表会をやり討論を熱心にやりました。私共会計学科研究会には当時明治大学短期大学部の女子会員も相当数おりましたので春秋には合同バスハイキングや親睦会等もやり、クリスマスパーティを開き大好評でした。又、夏休み、春休み、冬休みにはクラブ会員メンバーだけでなくクラスの組友、ゼミの友達等友人の実家を訪ねて泊めて頂きご家族の方々とも親しくさせて頂き今でも年賀状の交換を続けさせて頂いております。私も実家が仙台ですので何組かのメンバーを松島、秋保、蔵王等に案内し拙宅に泊まってもらった記憶があります。

一方私が自慢出来ることは大学四年間受講教科の授業はゼミを含めて一度も欠席したことはございません。ゼミナールは大野信三先生の理論経済学を二年間専攻しました。「卒論」は「日本経済に於ける中小企業の二重構造」のタイトルでまとめました。ゼミの専攻の中で記憶に残っているのは原書講読でボールデングの「経済分析」、約八百頁位の英文を辞書を片手に読破したことです。

このように学生時代大変良く遊び、良く学び、良く人と付き合い、議論しあったことが私の銀行員時代、上場会社役員時代、会社を経営している現在、大変役に立っております。私の処生感のよりどころ、難問に遭遇した際の対処の仕方等々に大変役立っていると実感しております。

この体験を生かして、明治大学校友会市川地域支部の為に役につけていければと決意を確しております。

カラオケ同好会の活動状況について



ゴルフ同好会について



毎年恒例となっているゴルフ同好会の新年会は、平成22年1月22日（金）に、市川駅南口にあるヤマザキ厚生年金基金会館に於いて、午後6時より、ゴルフ同好会のメンバーに加え、カラオケ同好会のメンバーの有志も加わり、呑んで食べて、ゴルフ談義にカラオケの競演へと、和気あいあいと盛会に開催されました。

ハイキングクラブの活動報告

秋晴の平成21年11月21日（土）京成中山駅へ11名のメンバーが集まりました。印南幹事のコース説明につづき広瀬会員夫人のご好意により、東山魁夷記念館の招待券が配布され喜びの声があがりました。

10時半にスタートして、市の施設で初めてという旧個人宅を活用し、ボランティア団体や小島貞二さんが落語会を開いていた精華園の日本庭園を遊歩し、簡単な体操で体をほぐしました。中山法華経寺では、まだ、改修後の日の浅い日本でも珍しい連棟の祖師堂を見、鬼子母神のおまつりしてあるお堂でお茶をいただきました。少し小高い場所には鎌倉時代に建てられた重文の中門などにしばし見とれました。竜王池をめぐる住宅街の坂を上ると木下街道へ出、すぐに東山魁夷記念館のドイツ風の建物が目に入ります。

入場券を手に1階の画伯の生い立ち、2階の作品を学芸員の説明を聞き、1階のレストランで昼食をとりました。記念の絵はがきを求め、午後の陽ざしの中を鬼越方面へ下り、八幡の脚本家水木洋子邸へ到着しました。あらかじめ白坂幹事が要請してあったため我々のために開館し、ボランティアの方々が説明してくれ、お話を拝聴しました。

住宅地をぬけるとゴールの八幡神社、天然記念物の大銀杏は、暖冬のせいかわず黄ばんだばかり、境内にある岡晴夫の歌碑の前で一同でヒットソングの「憧れのハワイ航路」を唄って散会しました。

編集雑記

今号より、「まつかぜ」のホームマットを変えさせて頂き、読み辛くなった点があるかも知れませんがご容赦下さい。今回、原稿を書いて頂いた方々に御礼を申し上げますと共に、これからも多くの会員の皆様よりのご意見ご希望を頂き、より良いものになればと思います。会員のご支援があってこそその明大校友会市川地域支部だと思っておりますので、今後も皆様のご協力宜しくお願い致します。

平成21年度のカラオケ同好会は四回実施され、毎回の参加者は、16名前後の参加でした。

第十五回の例会は、忘年会をかねて平成21年12月13日（日）にスナック「京」で開催されました。会員数22名中16名が参加しました。会の形式は、紅白に分かれ対抗戦で得点を競う形で行われました。

皆さんの努力の賜物か、最近はかなりレベルアップされ、特に今回は全員高得点で、逆転につぐ逆転で、1点を争う好勝負となりました。結果は、僅差で白組の勝利となりました。

その後は、ピンゴゲームを楽しんだ後、自由に歌って最後に、校歌を斉唱し、散会致しました。

平成22年度は、3月14日、6月13日、9月12日、12月12日の各日曜日に実施の予定です。

同好会は楽しく、気軽にをモットーに行っています。皆様の参加を心よりお待ちしております。

【平成21年度ゴルフ同好会活動報告】

平成21年度のゴルフ同好会活動状況は、毎年恒例としている年3回（第10回・第11回・第12回）のコンペ及び、新年会を下記の通り開催致しました。

なお、市川地域支部ゴルフ同好会の会員数は27名となっております。（平成22年1月現在）

【平成21年度同好会コンペの成績】 敬称略

| | |
|----------------------|------------|
| 《第10回》平成21年 4月17日（金） | |
| 長太郎カントリークラブに於いて | （参加人数 14名） |
| 優勝 中村 欣治 2位 関 勝治 | 3位 地引 一則 |
| 《第11回》平成21年 7月10日（金） | |
| 山田カントリークラブに於いて | （参加人数 14名） |
| 優勝 石川 守也 2位 高橋 一郎 | 3位 中村 欣治 |
| 《第12回》平成21年11月 6日（金） | |
| 神埼カントリークラブに於いて | （参加人数 14名） |
| 優勝 月館 光治 2位 平野 博 | 3位 高橋 一郎 |



東山魁夷記念館にて

